



【おとなの社会見学 NO.1 レポート】

行ってきました！

話題の都城市立図書館。

つくる学校

その建物の中に入ると巨大な船の中にいるような気持ちになった。
ノアの方舟って、こんなふうだったんだろうか。
つくる学校のメンバーと参加者 16 人で訪ねた都城市立図書館。
なぜ、こんな図書館が実現したのか。
ほかの図書館と、どこが、どう違うのか—
みんなで、ワイワイと探ってみました。



案内していただいた副館長の前田さん。いきなり30代を登用するところも先進的だ。館の運営はすべて指定管理者である株式会社マナビノタネ・株式会社ヴィアックスが請け負う。

ここにいるだけで、ワクワクする。

館内に一歩足を踏み入れるなり、うはぁ、とため息がでる。これまで見知っている公共施設とは、まるで匂いが違う。落ち着いていながら、明るい。いきいきとしている。中央ホールに始まるオープンな空間、流れるような本の展示、回遊性に富む導線などなど……ショッピングやピクニックにでかけているようなワクワクした気持ちになる。

案内していただいたのは若き副館長の前田さん。東京出身の30代。知的でフレンドリーなところも施設の雰囲気合っているぞ。

来場者数がハンパない。

2018年4月のオープン以来、半年で約60万人の来館者。1年で120万人に迫る予想も。これまで、年間で2万5000人ほどだったというのだから、

ハンパない増加数。「16万都市にしては、ちょっと多すぎるんです」と館長もうれしい悲鳴だ。

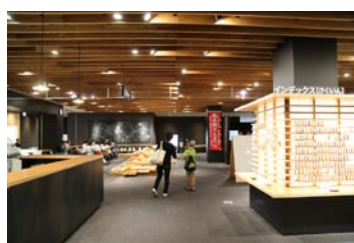
館内のどこも、商業施設のリノベーションだからこそ実現したというゆったり感。通路もトイレもずいぶん広々としている。

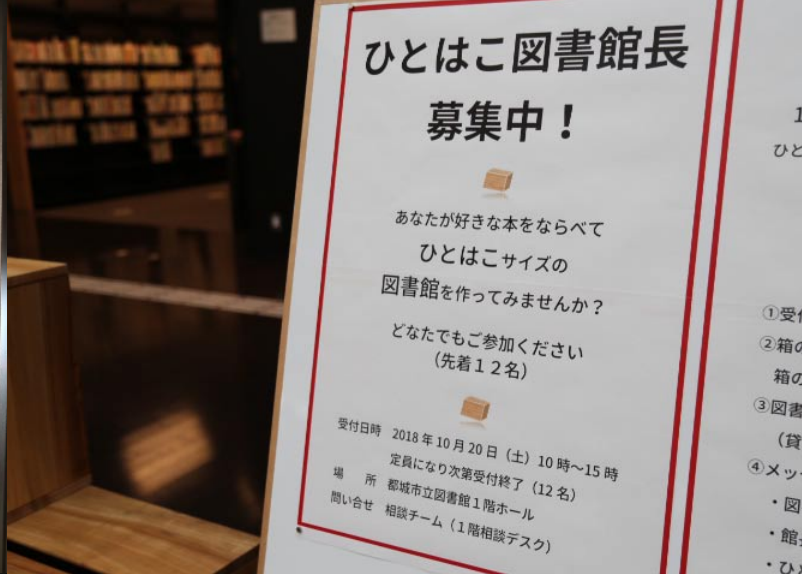
コンセプト（たとえば、だれもが自由に自分を表現する場）、ターゲット（たとえば、子育て世代のお母さん）、そしてコンテンツ、空間づくり、集客、と相当戦略的に練られているなぁと感じながら、思わず天井を見上げるとそこは、柔らかな光の差し込む巨大な天井が、大きな口を開けるようにして笑っていた。ほんとうに、心地いい。この場所にいるだけで、だんだんと心が開いてくるようだ。

想定外の若者たち。

印象的なのは、若者が多いこと。この母船のよう

【おとなの社会見学NO.1 レポート】
行ってきました！
話題の都城市立図書館。







落ち着いた雰囲気の1階は、グレーや黒を基調とした色調で専門書や文学書などが置かれ、2階は明るい色調で子どもや若者向けの本、あるいは料理や趣味など、お母さん向けの本を中心に置かれている。



な建物の中で安心して過ごせるからだろうか。休日だったせいもあるのだが、学習コーナーにも、お弁当コーナーにも、フリースペースにもわんさかいる。勉強が面白いとか、友だちといるのが楽しいとかいう空気が伝わってくる。健全な若者は、健全な図書館に宿る、に違いないのだ。

ゆくゆくは、この図書館があるおかげで都城市の学力が向上したり、不良たちがいなくなったりと、想定外の波及効果が起こるんじゃないかと夢想してしまう。レンタルの会議室は高校生たちが自分たちで、カフェでお茶を飲むくらいのお金を出し合って、部屋を借りて勉強したりするという。「これも予想外の利用のされ方でした」。若者たち、やるなあ。

なぜ、こんな図書館ができたのか？

大きなポイントと感じたのは3つ。

- 1、図書館ありきではなく、さびれた商業地区の起死回生をめざした本気のプロジェクトだったこと。
- 2、首長をはじめとする役所側にプランニング、建築等をまかせる業者の選択眼があったこと。
- 3、建築(会田設計)と運営(学びのタネ)が同時期に決まり、すべていっしょにプランニングできたこと(館長談)。

その他にも、企画段階から地域の各分野の専門家や住民たちとの協力体制ができたこと、大規模商業施設のリノベーションということで、新築より低

コストで空間や通路をゆったりとれたことなど、さまざまな要素が加わっているようだ。

どこが、他の図書館と違うのか？

まず大きな違いは、本の貸し借りだけでなく、ショッピングやカフェに行くような楽しさがあるということ。さらに、手づくり・工芸、サイエンス、会議・ワークショップなど、さまざまな機能が有機的に繋がっていることだ。どうしたらこの場所で、一人ひとりが楽しく自分らしく過ごせるかを、とことん考え抜き、小さな工夫を積み重ねて運営されているのだ。気づいた違いを挙げるときりがないので、ぜひ行ってみて体感してみてください。

さあ、足元の問題へ。

見学後の参加者ミーティングでは、都城図書館の「すばらしさ」を語りあってブーメランのように戻ってきたのは、わが鹿児島市の足元の問題。天文館・タカプラ跡の商業施設にできるとウワサされる「公共図書館」。ほんとうに市民にとって楽しくて便利で、誇れる図書館になって欲しい。「都城図書館すごいなー」で終わらせないためにも、次なる活動の種を播きたいと思うことでした。

(文責：吉国明彦)



【おとなの社会見学 NO.1 レポート】
行ってきました！
話題の都城市立図書館。

